

【書評】

永田忠道・池野範男編著『地域からの社会科の探究』

(日本文教出版, 2014年) 2,200円

馬野範雄

(大阪教育大学)

本書は、広島大学大学院教育研究科の永田忠道・池野範男両氏が、戦後の社会科教育に大きな影響を及ぼしてきた各地の先達・指導者にインタビューを行い、社会科教育に対する考え方や実践事例を紹介することによって、社会科教育の歩みや広がりをもつてきたもの。編集の目的を、次のように示している。

- (1) 各地で特色ある社会科が作り出され、推進されていることを示す。
- (2) 各地の社会科研究の起源、めざすもの、その後の歴史、これからめざす社会科の姿を具体的に紹介する。
- (3) それぞれの地域で、その特色を活かした社会科授業の実際を紹介する。
- (4) それぞれの特色ある社会科研究・実践について、大学の研究者の立場からコメントし、全国での位置づけを示す。

本書の構成は、次の通りである。

- 第1部 知識・概念・教材を軸とする探究学習
 - 第1章 知識の構造化による探究学習
 - 第2章 教材の人間化による探究学習
 - 第3章 中心概念による子どもの探究学習
 - 第4章 「窮め探り、その極を覽る」探究学習
- 第2部 子どもと人間の意識を軸とする問題解決学習
 - 第5章 「子どもの意識の流れ」による問題解決学習
 - 第6章 「なお、…したい」ことをめざす問題解決学習
 - 第7章 人間教育の核としての問題解決学習
 - 第8章 子どもが主体的に追究する問題解決学習
- 第3部 子ども同士や地域を軸とする関連相関による社会科学習
 - 第9章 「聴き合い」による社会科

第10章 子どもの身近なかかわりを核とする社会科

第11章 「こ・た・ね (個・多・練)」の社会科

第12章 子どもが自ら楽しく取り組む教材の開発による社会科

第13章 郷土室の整備と地域素材の教材化による社会科

紹介された先達や指導者の考え・取り組み、実践事例は、表の通りである。池野氏は、終章において、社会科教育の多様性の根拠として、次の3点をあげている。

- (1) 優れた社会科教師はことなつた社会科授業を進めている。
- (2) 特別なひとだけがことなつた社会科授業を進めているのではない。
- (3) 特別な学校ではなく、市井の社会科教師がいろいろな社会科授業を開発している。

本書では、確かに17人の先達・指導者と、16の都府県社会科研究・実践の紹介があり、その多様性を証明している。同時に、先達・指導者が理論をつくり、組織をつくり、それを営々と継続・発展させている歴史的な重みを感じた。

さらに社会科を大切にすなわち、若手教師の成長への期待など、先達・指導者の熱い思いが伝わってくる。戦後70年の社会科教育の歩みを単語のみで学ぶのではなく、自らが考え実践し、後輩を指導してきた先達の言葉から、学ぶことは大きい。さらに、社会科教育に関わる一人として、新たな研究・実践への意欲を喚起してくれる1冊である。若手研究者や教員にとって、必読の書ではないだろうか。

表 先達・指導者の考え・取り組み、実践事例

	活動場所	教材観・指導観	実践事例
松田康博	東京都小学校社会科研究会	教材構造図→知識の構造図 中心概念、具体的知識、用語等	3年「地域を支えるお祭り」とわたしたち」 5年「つながるからつなげるへ～これからの情報ネットワーク」 ①つかむ ②調べる ③まとめる ④ふかめる
伊東富士雄	東京都小学校社会科研究会、社会科教育研究センター 東京学芸大学附属世田谷小学校		
立岡誠	長崎小学校社会科サークル、社会科教育研究センター、小学校社会科研究会	中心概念 ①本質的な特性 ②社会的な役割や働き ③社会の変化に応じた変化	5年「くらしを支える情報」 探究学習過程 ①つかむ…問題把握・予想・検証計画 ②むかう…検証 ③みつめる…結論の吟味
佐藤正一郎	千葉県社会科教育研究センター	教材研究の過程 ①問題点を把握する。②子どもの問題にする。③学習へのしかけをつくる。④問題解決学習の構成 歴史を学ぶ窓…政治、産業、外国との関係、文化	5年「これからの食生活とわたしたち」 探究学習 ①問題把握 ②問題の追究 ③結論の吟味
辻迪夫	京都市社会科研究会	問題解決学習と系統学習の長所を活用する立場 求める…問題をつかむ、予想をたて調べ方を決める活動 分かる…自分の考えをもとに、みんなで確かめる活動 ひろげる…転移・発展、わけをつかみ、ひろげる活動	5年「情報を生かす私たち」 ①であう ②つかむ ③調べる ④まとめる
堀公明	大阪市社会科研究会 大阪府社会科研究会	①具体的ではっきりとイメージ化できる。 ②諸感覚を働かせて観察・聞き取り・調査できる。 ③子どもが切実感をもって追究できる。 ④身体表現したり絵やグラフなどに資料化できる。 ⑤思考をゆさぶり、新しい見方や考え方を生み出す。 ⑥人々の努力や願いに触れ、共感や願いを呼び起こす。	3年「ものを作る人びとのしごと」 【指導計画】 ①学習問題の把握 ②知識・技能や見方・考え方の習得 ③自力解決・表現活動 ④応用・発展 【本時の展開】①つかむ ②調べる ③考える ④ひろめる
安東裕	大分県社会科研究会、香川県社会科教育研究会	教師の論理と子どもの論理のバランス 子どもが考え続けること	4年「資源プラ分別のきまりをゆるめた清掃センターのSさん」
深谷孟延	社会科の初志をつらぬく会 信濃教育研究所 愛知県	①人間を育てる教育 ②考える授業 ③自分の考えを創り出す 問題解決学習	6年「我々の誇りを未来に伝える～半田に残る歴史遺産と私たちのつながり」
片桐清司	和歌山県(市)社会科研究会 奈良女子大学附属小学校	問題解決学習 ・身近な教材を使う ・教材研究を子どもから行う・単元学習を行う ・体験学習、ごっこ・構成活動を活用する。 「書く」ことを重視する。一人学習	5年「もっともっと工業！～オカジの段ボール作りから考えよう」
山田耕司	福岡教育大学附属福岡小学校、県社会科研究協議会	副読本「よいこの社会科」 地域教材の発掘のための実地調査と確かな資料の読み取り 聴き合いによる社会科の実践研究	6年「オッペケペー節と自由民権運動」
砂田武嗣	石川県金沢市社会科教育研究会 金沢大学教育学部附属小学校	課題解決学習、3段階の支援 ①学習意識を喚起する資料の吟味と提示の工夫 ②課題に対する考えを揺さぶる発問の工夫 ③既習内容を活用した課題解決	6年「新しい日本 平和な国へ」 ①社会認識を助けることができる教材 ②見方や考え方を確かなものにする学習活動 ③自分の生活や学びに生かす指導と評価
渋谷光夫	山形大学教育学部附属小学校、自主サークル山形県社会科を語る会	【教材開発の原則】 ①生活性 ②意外性 ③明快性 ④発展性 ⑤活動性	4年「ゴミの？(ハテナ)大研究」 ①課題把握 ②課題の共有化・焦点化、個人的な思考、多様な思考、練り上げる思考 ③予想 ④検証 ⑤解決 ⑥発展
岡崎明宏	岡山大学教育学部附属小学校、小学校教育研究会社会科部会	①課題をもつ ②課題について意見をもつ ③課題を追求する ④わかったことをまとめる ⑤わかったことを他の場合にあってはめてみる ⑥新しい課題に気づく	6年「アジア・太平洋に広がる戦争と国民生活」 ①問題をつかむ ②問題を解決する ③はたらきかける
中村雅利	茨城県、日立社会科同好会	郷土資料室の整備 ①調べ学習ができるよう資料の系統的な配置 ②資料には解説を付ける ③ふるさと学習室が体験の場になるスペースの確保 ④手にふれることができるようオープン展示 ⑤地域に残る伝統文化について、調べ学習に対応	4年「金沢用水」